

令和 2(2020)年 4 月 1 日～

令和 3(2021)年 3 月 31 日

# 日本財団助成事業 「聴覚障害者のための キャリアサポートセンターの設置」

(事業 ID : 2019521309)

令和 2 (2020) 年度活動報告書



当事業ホームページはこちら！

⇒ <https://tsukutech-social.net/site/>



## 【目次】

### 1. 日本財団助成事業「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」の概要

(1) 背景	1
(2) 当事業の目的	1
(3) 事業担当者	2
(4) 事業計画（全体）	2
(5) 事業計画（令和2年度）	3

### 2. 実情調査の実施

(1) アンケート調査結果の公表	4
(2) 他大学へのヒアリング	9

### 3. 聴覚障害者の就労に関する支援

(1) 社会人聴覚障害者への支援	11
(2) 聴覚障害学生への支援	13
(3) 企業への支援	15

### 4. 拠点の整備

(1) 当事業ホームページの拡充	16
(2) SNSの活用	16

### 5. 令和3年度事業について

17
----

## 1. 日本財団助成事業「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」の概要

### (1) 背景

大学へ進学する障害学生数が増加傾向にある昨今、在学中の修学支援については、個々の大学における障害学生支援室の設置や筑波技術大学に事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)をはじめとした大学間連携体制の構築が着々と進められてきました。しかし、卒業後を見据えたキャリア支援の取り組みは緒に就いたばかりで、特に、コミュニケーションに不自由さがある聴覚障害学生の利用を見込んで情報保障等の体制を整備しているサービスは、ほとんど見られません。聴覚障害学生が長期的なキャリアを見据えて進路選択をするための情報やロールモデル、就職後に悩みを共有する場、積極的なキャリアアップを目指す際の学びの場が不十分であるために、職務内容や職場環境とのミスマッチが生じ、短期間での離転職を余儀なくされるケースも少なくありません。

そこで、聴覚・視覚障害者を高度専門職業人として養成する使命を長年担ってきた本学として、学校卒業後の聴覚障害者のキャリア支援に関する取り組みを全国的に強化していく役割を担うべく、2019(平成 31)年度～2023(令和 5)年度の 5 力年計画を構想し日本財団助成事業「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」を受託いたしました。

### (2) 当事業の目的

当事業では、聴覚障害学生が自らの進路を積極的に選択できるための情報や機会の提供、就職後の負担を低減するための職場環境設定の提案、大学卒業後も学び続けられる場の整備などを通じて、多面的なキャリアサポート支援体制を構築することを目標としています。

#### <中長期的目標（2023 年度の事業完了時まで）>

筑波技術大学ならびに全国 3 箇所に置かれた拠点大学等に聴覚障害者ライフ&キャリアサポートセンター（以下サポートセンター）（仮称）を設置します。サポートセンターには聴覚障害当事者を含む相談員を配置し、ここを拠点に聴覚障害のある社会人と現役学生、企業を繋ぐための相談・コンサルティング、各種セミナー開催等を行います。

#### <最終目標>

拠点ネットワークを全国に拡大し、すべての地域でサポートセンターを利用できる体制を構築します。聴覚障害学生が長期のインターンシップ経験を元に大学での学びを深められる支援モデルの提案・導入、小中学校・高等学校の児童生徒に対する幼少期からのキャリア教育の実践、職場における情報保障体制の提案等を通して、聴覚障害者が幼少期から将来社会で働く自分をイメージしながらキャリアを積み重ね、その力を職場等で発揮できる社会の実現を目指します。

### (3) 事業担当者

河野 純大 : 筑波技術大学 産業技術学部 准教授 (当事業責任者)  
 加藤 伸子 : 筑波技術大学 産業技術学部 教授  
 白澤 麻弓 : 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授  
 小林 彰夫 : 筑波技術大学 産業技術学部 准教授  
 安 啓一 : 筑波技術大学 産業技術学部 講師  
 横井 聖宏 : 筑波技術大学 産業技術学部 助教  
 後藤 由紀子 : 筑波技術大学 産業技術学部 特任助手  
 田中 陽土 : 筑波技術大学 産業技術学部 技術補佐員

### (4) 事業計画 (全体)

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
調査	・卒業生/社会人聴覚障害者を対象としたニーズ調査 ・海外視察調査 (RIT、ギャローデット等)	・他大学へのヒアリング (PEPNet-Japan 情報交換会)	・企業に対するヒアリング		
センター整備	・サポートセンター設置準備室の開設 ・オフィスの確保 ・人員の配置	・サポートセンターの開設 ・遠隔システム導入	・サポートセンター本格始動 ・人員の増員		
サテライトオフィス整備	・オフィスの確保 ・環境整備	・サテライトオフィス開設 ・遠隔システム導入	・サテライトオフィス本格始動		
Webサイト整備	・サーバー設置 ・HP 開設 ・SNS サイト構築に向けた準備	・SNS サイト開発	・保守メンテナンス ・機能拡充	・保守メンテナンス ・機能拡充	・保守メンテナンス ・機能拡充
社会人対象事業	・相談窓口の開設 ・カタリバの開設 ・サポート講座の開催 (いずれも不定期)	・相談窓口の開設 (週 2) ・カタリバの開設 (月 1) ・サポート講座の開催 (定期)	・相談窓口の開設 (週 5) ・カタリバの開設 (月 1) ・サポート講座の開催 (定期) ・教材作成	・相談窓口の開設 (週 5) ・カタリバの開設 (月 1) ・サポート講座の開催 (定期) ・教材作成	・相談窓口の開設 (週 5) ・カタリバの開設 (月 1) ・サポート講座の開催 (定期) ・教材作成
学生対象事業	・先輩の話聞く会 (ランチトーク) ・会社説明会/集団面接の実施	・相談窓口の開設 ・キャリア支援セミナーの開講 ・会社説明会/集団面接の開催	・相談窓口の開設 ・キャリア支援セミナーの開講 ・会社説明会/集団面接の開催 ・インターンシップ拡充	・相談窓口の開設 ・キャリア支援セミナーの開講 ・会社説明会/集団面接の開催 ・インターンシップ拡充	・相談窓口の開設 ・キャリア支援セミナーの開講 ・会社説明会/集団面接の開催 ・インターンシップ拡充
企業対象事業			・企業向け相談窓口の開設 ・上記ヒアリングを通じた情報交換	・企業向け相談窓口の開設 ・企業向けセミナーの開催	・企業向け相談窓口の開設 ・企業向けセミナーの開催
他大学拠点整備		・上記ヒアリングを通じた情報交換	・支援拠点形成に向けた協議開始	・全国 3 か所に支援拠点設置準備室開設 ・相談窓口の開設 ・人員の配置 ・サポート講座開催	・全国拠点始動 ・相談窓口開設 ・サポート講座開催 ・キャリア支援セミナーの開講

なお、この計画は 2018 年度に行った当事業の助成申請時に作成したものであり、社会情勢の変化や事業の進捗状況等によって一部変更となる可能性があります。

### (5) 事業計画（令和2年度）

	内容	対象・方法	実施時期（目安）
1. 実態調査の実施	ヒアリング調査	対象： PEPNet-Japan 正会員大学から選んだ3大学	6～1月
2. 拠点の整備	(1)つくば・東京 オフィスの運用	筑波技術大学内拠点の運用・サテライトオフィス ならびに相談窓口の運用	通年
	(2)SNSの運用	SNSサイトなどのポータルサイトの整備と運用	通年
3. 社会人聴覚障害者 対象事業の実施	(1)相談窓口の開設		通年
	(2)カタリバの開設		通年
	(3)ライフ&キャリアサポート講座の開講		6月/8月/10 月/12月/2月
4. 現役聴覚障害学生 対象事業の実施	(1)キャリア支援セミナーの開講		8月/9月/2月
	(2)先輩の話を聞く会の開催		8月/9月
	(3)合同企業説明会の開催		5月
5. 企業対象事業の 実施	(1)企業向け理解啓発セミナー		12月
	(2)合同企業説明会の開催		5月

## 2. 実情調査の実施

### (1) アンケート調査結果の公表

令和元(2019)年度事業にて行った「聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査」の結果について、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が主催する「第 28 回職業リハビリテーション研究・実践発表会にて発表を行いました。発表資料（以下に掲載）と発表論文は、2020 年 12 月 25 日より、同発表会のホームページにて公開されています。

#### 第 28 回職業リハビリテーション研究・実践発表会

<https://www.nivr.jeed.go.jp/vr/news/28kaisai.html>

#### 【発表資料（スライド 10 枚）】

# 聴覚障害者のキャリアアップ における課題

## —聴覚障害当事者と企業担当者に対する アンケート調査から—

- 後藤 由紀子（筑波技術大学産業技術学部 特任助手）
- 横井 聖宏（筑波技術大学産業技術学部）
- 河野 純大（筑波技術大学産業技術学部）



筑波技術大学は、日本で唯一の、聴覚・視覚障害者のための高等教育機関です。

社会に貢献できる先駆的な人材を育成することを教育的使命とし、この使命を果たすために幅広い教養と高い専門性を授ける教育を行っております。

学 部：産業技術学部、保健科学部

大学院：技術科学研究科

（産業技術学専攻／保健科学専攻／情報アクセシビリティ専攻）

大学ホームページ <https://www.tsukuba-tech.ac.jp/>

## はじめに

### (1)大学における聴覚障害学生のキャリア支援

大学に在籍する聴覚障害学生の支援において、**修学支援に関しては**、個々の大学における障害学生支援室の設置や、筑波技術大学に事務局を置く日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan※)をはじめとした**大学間連携体制の構築が着々と進められてきた**。

しかし、卒業後を見据えた**キャリア支援の体制は発展途上**であり、事例の蓄積や障害理解啓発のための**ネットワーク作りが必要**とされている<sup>1)</sup>。

※PEPNet-Japanホームページ: <http://www.pepnet-j.org/>

### (2)聴覚障害者のキャリアアップ支援

岩山(2013)が算出した聴覚障害者の離職率は身体障害者全体の離職率を上回る水準で高止まりしており、かつ聴覚障害者は転職回数も多いと指摘されている<sup>2)</sup>。

また、聴覚障害者が仕事についての悩みを打ち明ける相談先は主に聴覚障害のある友人・知人であり、「**手話のできる人**」に相談したいという意向を持つ**聴覚障害者は就労支援に関する専門機関をあまり利用していない**実態が明らかとなっている<sup>3)</sup>。聴覚障害者の離職には福祉や労働を専門とする支援者が介入している事例が少ないと推察されることから、聴覚障害者のキャリアアップ支援においては**コミュニケーション環境の保障された相談場所の設置が肝要**である。

### (3)日本財団助成事業「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」

事業の受託における目的や事業内容については、次のスライドで詳述する。

本発表では、当事業の開始にあたってのニーズ把握を目的として行った「**聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査**」の結果を抜粋して報告する。

#### 【参考文献】

- 1)川合紀宗, 西塔愛. 聴覚障害者を雇用する企業に蹴る当事者支援の現状と課題に関する考察. ろう教育科学. 53(1). 23-37. 2011
- 2)岩山誠. 聴覚障害者の職場定着に向けた取り組みの包括的枠組みに関する考察. 地域政策科学研究. 10. 1-24. 2013
- 3)水野映子. 聴覚障害者の仕事に関する相談先-聴覚障害者対象アンケートの結果より-. LIFE DESIGN REPORT Spring 2016.4. 25-38. 2016

2

## 日本財団助成事業「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」

筑波技術大学では、令和元年度より日本財団助成事業「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置(～令和5年度)」を受託している。

当事業の目的は、聴覚障害学生が自らの**進路を積極的に選択できるための情報や機会の提供**、**就職後の職場環境に関する提案ならびに相談対応**、**大学卒業後も学び続けられる場の整備**などを通じて、**多面的なキャリアサポート体制を構築**することである。事業内容は、以下の通り。

### 「聴覚障害者のための キャリアサポートセンターの設置」 事業



#### 当事業について

企業等で就労している聴覚障害者が、業務を遂行する上で周囲とのコミュニケーション等に困難を感じる場合があります。しかし大学在学中から就職後にかけて、就職に向けた不安や職場での困難さについて相談できる場所は多くありません。

当事業は、**聴覚障害のある社会人の方々、聴覚障害者を雇用している/これから雇用する企業の方々、大学等に在学中の聴覚障害学生の方々を**対象としております。

就労上の困りごとに関する相談対応やスキルアップ・キャリアアップに資するサポート講座の開催、現役学生へのキャリア教育、聴覚障害者を雇用する企業への理解啓発などを通じて、聴覚障害者の生涯を見据えたキャリアサポートに取組みます。

#### 事業概要

当事業の概要は、以下の通りです。

#### 社会人対象事業

- 就労上の悩みや情報を交換する情報交換会(カタリハ)の開催
- 職業生活に役立つ知識、情報を提供するライフ&キャリアサポート講座の開催 等

#### 相談対応拠点事業

- つくば拠点(筑波技術大学内)、東京拠点(サテライトオフィス)にて相談対応を行います。

#### 企業対象事業

- 会社説明会におけるコミュニケーション支援
- 聴覚障害者の雇用管理等に関する相談 等

#### 現役学生対象事業

- 社会人の聴覚障害者の話を聞く会の開催  
⇒ 就労する上で必要なスキルを在学中に学ぶことを目的としています。
- 企業説明会の開催 等

#### お問い合わせ先

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15総合研究棟R207室  
国立大学法人筑波技術大学  
「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンター」  
つくば拠点

当事業は、日本財団の助成を受けて行われています。



ホームページはこちら！  
⇒<https://tsukutech-social.net/site/>



TEL/FAX 029-858-9016  
E-mail career\_support@tsukutech-social.net

3

# 聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査 ～概要～

## \* 調査の目的 \*

「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」事業の始動に先立ち、**聴覚障害者の職業生活の実態と職業生活の質を高めるための支援ニーズを把握すること**を目的として、実施した。

## \* 調査方法 \*

郵送・Web回答による自記式質問紙調査

## \* 調査対象 \*

- ・筑波技術大学を卒業した、**聴覚障害のある社会人979名**
- ・聴覚障害者を雇用している**企業の担当者358名**

## \* 調査期間 \*

令和元年9月～

## \* 分析 \*

選択式で回答された箇所については単純集計を行った。

自由記述の箇所については共同研究者と協議の上で内容をカテゴリごと分類し、各カテゴリについて命名した。

## \* 調査内容 \*

本発表では、調査項目の内、以下の箇所を取り上げる。

### 聴覚障害のある社会人向け調査

- ① 回答者の属性（選択式、単一回答）
- ② キャリアアップの目標の有無（選択式、単一回答）
- ③ キャリアアップの目標を持っていない理由（選択式、単一回答）
- ④ キャリアアップのために取り組んでいること（自由記述）
- ⑤ 大学への支援ニーズ<就職後>（選択式、複数回答）

※この他、職場内でのコミュニケーション方法や、職場で理解してもらって助かっていること/理解されずに困っていること、仕事に対する満足度、勤務状況に関する自己評価等について尋ねた。

### 聴覚障害者を雇用している企業担当者向け調査

- ① 企業概要、回答者の属性（選択式、単一回答）
- ② 聴覚障害社員のキャリアアップについて実施中の取組み（選択式、複数回答）
- ③ 聴覚障害社員のキャリアアップに関する課題（自由記述）
- ④ 大学への支援ニーズ<就職後>（選択式、複数回答）

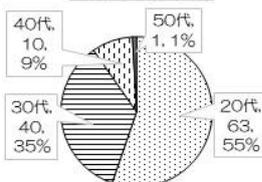
※この他、聴覚障害社員とのコミュニケーション方法、聴覚障害社員の勤務状況の評価等について尋ねた。

# 聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査 ～結果①～

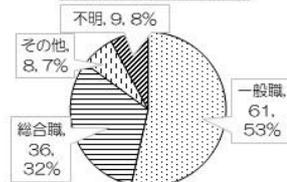
**社会人 114件**  
(回収率11.6%)

※円グラフの凡例は「回答内容,回答者数,回答割合」を示しています。

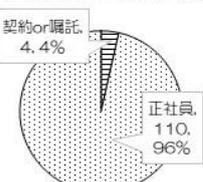
### 回答者の年齢



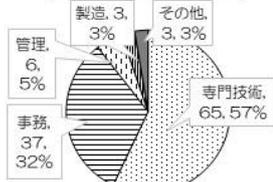
### 回答者の採用形態



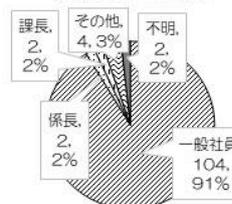
### 回答者の就労状況



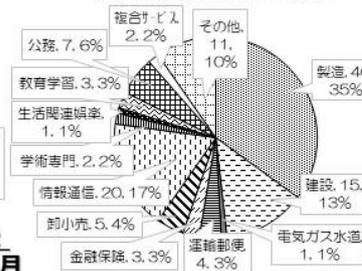
### 回答者の仕事内容



### 回答者の役職



### 回答者の勤務先の業種



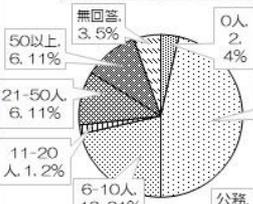
現職の就労期間平均:  
**3年1.5か月**

**企業 56件**  
(回収率15.6%)

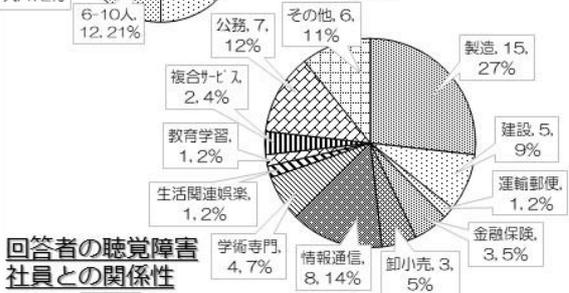
### 従業員数



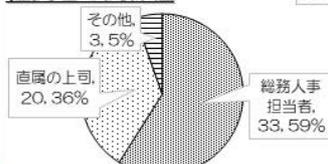
### 聴覚障害社員の数



### 業種



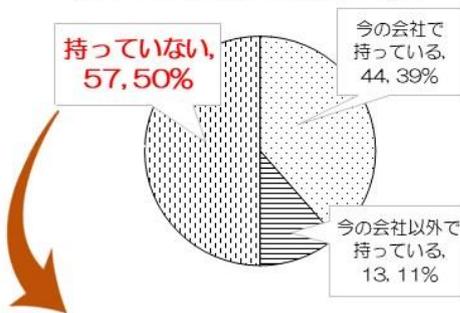
### 回答者の聴覚障害社員との関係性



## 聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査 ～結果②～

### 社会人

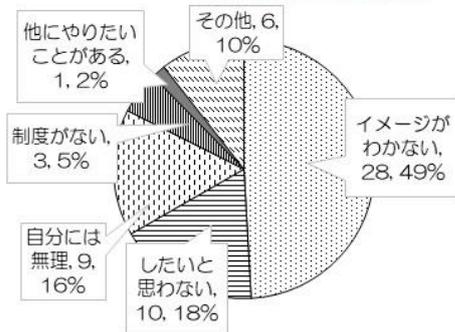
#### キャリアアップの目標の有無



#### キャリアアップの目標 ※一部抜粋

- 【専門性の向上】
  - ・一級建築士の資格取得を目標としている。
  - ・自社で数えるくらいの検査エンジニア。
  - ・ITプロフェッショナル（ITサービス分野）を目指している。
  - ・Linux関連の資格をとって職域の幅を増やしたい。
  - ・CADの取扱いや機械設計者として知識やノウハウで同僚に負けたくない。
- 【昇格・部署異動】
  - ・チーフデザイナーとして活動していきたい。
  - ・正職員への登用。
- 【転職・起業、その他】
  - ・一つの会社にごたわらず、様々な会社でスキルアップ・キャリアアップしたい。
  - ・海外で仕事をすることを考えている。

#### キャリアアップの目標を持っていない理由



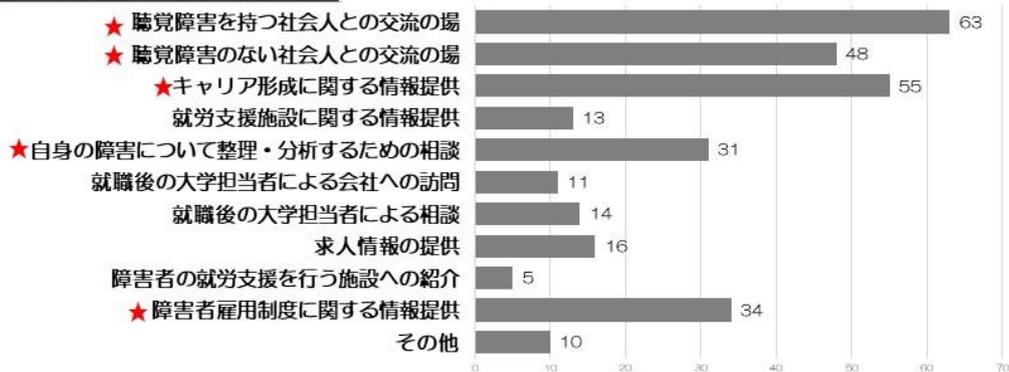
#### キャリアアップのために取り組んでいること ※一部抜粋

- 【自主学習】
  - ・個人で仕事（副業）をとったり、新しいスキルを学んだりしながら、転職活動している。
  - ・最新技術の動向をチェックする
  - ・接客に関する資格の勉強や経験を積むこと。
- 【社内制度の活用】
  - ・社内のアイデアコンテストへの応募。
- 【職場での心かけ】
  - ・業務割合を減らすよう業務割振の仕方の工夫。部下のメンバーがうまく回るように調整をすること
  - ・課長をよいしょする。
  - ・自身の業務をメンバーの人と共有することで理解してもらい、業務を分担できるようにすることで他の業務に関わる機会を増やしている。
  - ・会社の中の委員会活動やクラブ活動に積極的に取り組み、人のつながりを大切にするので仕事もスムーズに進められるようにしています。
  - ・真面目に仕事に打ち込むこと。筆談・メール・手話あらゆる手段でしっかり周りとのコミュニケーションを取ること。明るく挨拶をすること。6

## 聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査 ～結果③～

### 社会人

#### 大学への支援ニーズ<就職後>



#### 結果まとめ（聴覚障害のある社会人からの回答を受けて）

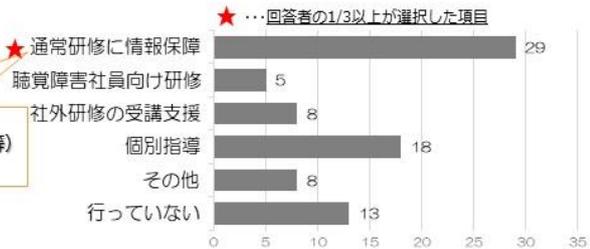
- 回答者の年齢は20代と30代の合計が9割を占め、就労期間の平均は3年超、9割以上が一般社員であり、就職してから間もない、**キャリアアップを今後控えたい世代が多かった。**
- 回答者の半数がキャリアアップの目標を持っておらず、その理由として最も多く回答されたのは「**イメージがわからない**」であった。
- **キャリアアップの目標**としては、設計やデザイン、IT系などの**専門技術を高めて資格を取得すること、会社内で昇格すること、転職・起業すること**などが挙げられた。**キャリアアップのために取り組んでいること**としては、**自主学習**や、社内での人間関係の充実やリーダーシップの発揮を目指した**個々人の日々の振る舞い・心構え**といったことが挙げられた。
- **大学に対する支援ニーズ**としては、**他の社会人との交流の場の提供**や、**キャリア形成・障害者雇用制度に関する情報提供**などについての要望が多かった。

## 聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査 ～結果④～

### 企業

#### 聴覚障害社員のキャリアアップについて 実施中の取り組み

「他の社員と同様の研修プログラムに、  
情報保障（手話通訳・パソコン要約筆記等）  
を配置し参加させている」の意味



#### キャリアアップの課題

##### 【コミュニケーション上の課題】

- ・積極的なコミュニケーションを避ける傾向がある。周りのメンバーも接し方がわからないため、コミュニケーションが取れていない。
- ・対外交渉では電話を含む口頭で進める事が多くあり、経験を積むにも有効な認識だが、現実難しい。

##### 【本人の主体性・意欲】

- ・キャリアアップへの主体性の醸成。
- ・聴覚障害を持っていても向上心があれば高い技術を身に付けることができます。遠慮せず、前向きに取り組むことが必要だと感じます。
- ・どうしても受け身の姿勢になりがちなのでもっと積極性を持って欲しい。報・連・相が課題。
- ・本人がキャリアアップに関してあまり積極的ではないと感じる。本人がどこかハンデとしてあきらめている、上司が聞こえないことのマイナス面に捉われ無理だと思込んでいるといった双方の課題をコミュニケーションにより解決していくべきと考えている。

##### 【情報保障付きで研修を受けることの困難さ】

- ・手話通訳等の配置が難しいため、研修（外部も含め）に参加できる機会が少ない。

##### 【社内の環境整備】

- ・自身がキャリアアップを望んでも、そのことができる環境が整わないと伴わなくなるので、環境整備が課題であると考ええる。
- ・デスクワーク以外の業務でのOJTではサポート体制を組むのが難しく、限界を感じている。
- ・本人から、具体的な情報保障の手段についての要望がないため課題が見つかる毎に仕事を依頼する側が配慮する形となっている。その手間を割ける余地があまりない。
- ・スピードが求められる様な仕事では、コミュニケーションがとりづらいため、成果を出す事が難しい。その中で健常者と同じ評価基準で評価されてしまう。キャリアアップの幅も狭くなり、思うようにキャリアアップに繋げる事が出来ていない。能力を活かせるような役割、ポジション、評価基準を作る事も必要なのではないか。

##### 【その他】

- ・手話感覚での文章なのか、時折文章の意図がわからなくなる。
- ・何年後にどういうキャリアになっているか、お互いにその姿を共有できていないのは課題と思います。
- ・個人の障害特性に配慮したキャリアアッププログラムが必要。

8

## 聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査 ～結果⑤～

### 企業

#### 大学への支援ニーズ



#### 結果まとめ（聴覚障害者を雇用している企業の担当者からの回答を受けて）

- 回答の8割近くが従業員300人を超える大企業であったが、聴覚障害社員の人数は1～5人の企業が全体の約半数を占めた。
- 回答者の6割近くが総務・人事担当者として聴覚障害社員と接している方であった。
- 各社が聴覚障害社員のキャリアアップのために実施している取り組みとしては、他の社員が受講する研修に、手話通訳やパソコン要約筆記といった情報保障を配置することが最も多く行われていた。
- 聴覚障害社員のキャリアアップに関する課題としては、聞こえない/聞こえにくいことからくるコミュニケーションの困難さだけでなく、聴覚障害社員自身がキャリアアップに対して消極的であること、また情報保障や評価基準といった社内環境・制度の整備などが挙げられた。
- 大学に対する支援ニーズとしては、キャリア形成に関する情報提供、他の社会人との情報共有の場の提供などについての要望が多かった。

9

### 調査結果に関する考察

#### 【聴覚障害者のキャリアアップについて】

聴覚障害当事者については比較的若い世代の回答者が多かった本調査において、キャリアアップの目標が「無い」との回答が半数を占め、目標を持っていない主な理由は「イメージがわからない」ことであると分かった。このことから、**聴覚障害者のキャリアアップを取り巻く課題の一つは情報やロールモデルの少なさからイメージを持ちにくいこと**であると考えられる。

また、キャリアアップの目標を持っていない理由に関する回答の傾向からは、**キャリアアップに対して意欲的でなかったり能力的な困難さを感じていたりする聴覚障害者が一定数いる**ことが示唆された。聴覚障害当事者の意欲や主体性については企業担当者からも課題として捉えられている。

企業担当者の回答では、その他に**コミュニケーションの困難さから情報の取得や業務の効率化が進まず昇進に繋がりにくい**こと、手話通訳等の**情報保障のある研修が少なく学習の場が得にくい**ことが指摘されていた。個々の回答の中では、**聴覚障害の特性に応じたキャリアアッププログラムや評価制度の創設**といった解決策も提案されていた。

#### 【大学への支援ニーズについて】

聴覚障害当事者・企業担当者に共通して高いニーズが確認されたのは、**他の社会人との交流の場の提供と、キャリア形成に関する情報提供**であった。このことから、やはり、**聴覚障害者のキャリアアップにおけるモデル像や事例等の情報、そしてそれらを提供する社会資源が不足している**状況がうかがえる。

#### 「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」今後の事業展開

本調査を通して、聴覚障害者の就労において、**大学には他の社会人との交流の場の提供、キャリア形成に関する情報提供といった役割が求められている**ことが分かった。今後は大学へのキャリア形成支援ニーズに応えるべく、**聴覚障害がある社会人の交流の場や情報保障の整備された研修の開催等**について検討していく。

2020年度については、「**キャリアアップのための基礎知識**」「**TOEIC試験対策**」「**応用情報技術者試験対策**」といった講座や、**聴覚障害当事者が就労上の悩みや情報を交換する情報交換会（カタリバ）**を開催予定である（一部開催済みのものも有）。

⇒講座の詳細については当事業ホームページをご覧ください。

<https://tsukutech-social.net/>  
右のQRコードからでもアクセスできます。



10

## (2) 他大学へのヒアリング

令和3(2021)年2月～3月にかけて、PEPNet-Japan 正会員大学を含む5大学に対し、メールによるヒアリングを行いました。今回のヒアリングでは、**聴覚障害学生の在籍数が比較的多く、障害学生支援部署と就職支援部署とが一定の連携を行っていると思われる大学を対象として、聴覚障害のある卒業生に対する支援状況を把握することを目的としました。**ヒアリング結果の概要は以下の通りです。

【ヒアリング回答者の属性】※①～⑤の番号は、次頁「ヒアリング結果の概要」表と対応しています。

大学①：障害学生支援室職員

大学②：キャリアセンター教員

大学③：障害学生支援室職員

大学④：学生支援センター職員

大学⑤：特別支援教育を専門とする教員

### 【ヒアリング結果の概要】

⇒次頁参照

※職名・部署名等の大学が特定される可能性がある表現に一部修正を加えています。

質問	回答内容 (大学別)
<p><b>Q1.</b> 聴覚障害のある卒業生の連絡先を把握しているか？ 把握している場合はどのように活用しているか？</p>	<p>①卒業時・既卒者登録時に把握する他、卒業3年目のアンケートで把握することもある。 ②ある程度把握している。イベント等への協力依頼を行う際の検討材料としている。 ③支援室が把握しているのは在学時の連絡先のみ。学生支援課や総務課が保有している調書・同窓会名簿等から検索することは可能。 ④センターとしては把握していない。卒業生からの連絡が無い限り、センターとしての関わりは卒業をもって終了している状況。 ⑤積極的に把握はしていないが、在学時に大学から配布するメールアドレスは卒業後も使用可能なため連絡を取ることは可能。その方法で講師依頼を行ったこともある。</p>
<p><b>Q2.</b> 障害のある卒業生への支援内容（学外機関との連携を含む）は？</p>	<p>①障害学生に限らず卒業3年までは既卒者登録が可能でありキャリアセンターがサポートする。ハローワークの大学担当者へ繋ぐこともある。 ②件数は非常に少ないが個別相談ベースで対応している。学外リソースとの連携や情報提供を行うこともある。 ③特に無い。卒業後に障害者訓練施設へ通所したのち就職に繋がったケースはある。 ④卒業生から相談があれば、聞き取りを行って外部機関や就職先へ連絡を取るケースもある。卒業時に進路の決定していない卒業生については地域資源にリファーしている。キャリア支援担当部署でも原則的には在学生の対応のみでありハローワーク等へ繋いでいる。 ⑤聴覚障害学生では学外機関との連携事例はないが、聴覚以外に障害のある学生を地域障害者職業センターへ繋いだことはある。</p>
<p><b>Q3.</b> 在学中からの就職支援にどの程度関わっているか？ (他部署、学外機関との連携状況を含めた支援状況について)</p>	<p>①支援登録時（多くは1年次）に障害学生対象の就職情報の要否を尋ねている。就職支援時はキャリアセンターの障害学生担当者へ繋いで修学支援担当者同席の元、インテーク面談を行う。学外機関に対してはキャリアセンターが窓口となっている。 ②修学支援部署とキャリア・就職支援部署が連携しいイベント開催や個別対応を行っている。就労移行支援事業所やハローワークと連携することもある。 ③入学前面談にキャリア支援課職員が同席し、入学後の定期面談にも同席することがある。定期面談は半期に1回程度行い、進路希望についても尋ねて適宜ゼミ担任やキャリア支援課と共有している。卒業前の面談では卒業後支援の要否を確認している。就職支援は主にキャリア支援課職員が担い、就職情報会社と連携して障害学生向けのキャリアガイダンスを毎年開催している。 ④年に数回、キャリア支援担当と連携して障害学生向けの就職説明会を行っているが、就活サイト等で自己開拓する学生が多い。その他、個別面談を通して障害状況の説明方法を検討することもある。学外機関との連携については、学生から就労移行支援事業所等の利用希望が出てきた際には地元行政機関への相談を促している。 ⑤就職支援はキャリアサポートセンターが担当する。教員志望の学生については試験対策等を行い、それ以外の学生については求人情報や就労移行支援事業所の情報を適宜伝えている。</p>
<p><b>Q4.</b> 現役の障害学生と卒業生との交流企画を開催しているか？ 開催している場合は内容も。</p>	<p>①近年障害学生 OBOG 会が発足したことから、今後交流の機会が増えていくことが期待される。 ②大規模ではないが実施する見込みはある。 ③2014～2017 年度に実施していた。卒業生を招いて就活の経験や職場での情報保障、人間関係などについて話してもらった他、在学学生とのフリートークの時間を設けた。 ④学生支援センターとしては開催していない。教員志望の学生から教員になっている卒業生と話したいといった要望が出た際に個別に対応する程度。 ⑤近年は行っていないが開催したことはある。卒業生を招いて、聴覚障害学生や支援学に対して職場での情報保障などについて話してもらった。卒業生と非公式の LINE グループで繋がって情報交換も行っている。</p>

### 3. 聴覚障害者の就労に関する支援

#### (1) 社会人聴覚障害者への支援

##### ① 相談対応

筑波技術大学教員、他常勤のキャリアコンサルタント等が相談対応を行っております。つくば拠点、サテライトオフィスでの対面相談の他、メール相談も受け付けております。

対応実績： 対面相談 5件  
 テレビ会議システムを用いた遠隔相談 8件  
 電話相談 1件  
 メール・SNS等を用いた相談 149件

休職期間中の上司とのやりとりに関する助言、パソコンスキルの指導、転職に向けた相談等を行いました。

##### ② 「カタリバ」の開催

「カタリバ」は、聴覚障害のある社会人の方々が働く上での工夫や悩みなどについて、ざっくばらんに“語り”ながら情報交換できる場を提供することを目的としたイベントです。

本年度は下記の2回、オンライン開催いたしました。

	開催日程	概要	ゲスト講師	参加者
第1回	2020年 11月28日 18:30～ 20:00	1. ゲスト講師からの話題提供 【情報保障】講師本人が手話・音声で発話+スタッフによるチャット入力フォロー 2. 参加者自己紹介 【情報保障】各自が手話・音声により発話+スタッフによるチャット入力フォロー 3. グループ（任意に振り分け）ごとの情報交換 【情報保障】各自が手話・音声により発話+参加者によるチャット入力フォロー	筑波技術大学 OB教員 1名	17名
第2回	2021年 3月6日 13:00～ 17:00	1. ゲストスピーカーによる講話 講話テーマ： 「副業体験」「転職経験」「職場でのコミュニケーション」 「好きなことを仕事にすること」「社会人になって気づいたこと」 「今、見つけて欲しいもの」「コロナ禍での就職経験」「研究と就活の両立」 【情報保障】筑波技術大学教員による手話の読み取り通訳・文字通訳 2. 筑波技術大学在学学生との交流 【情報保障】各自が手話・音声により発話+スタッフによるチャット入力フォロー 3. テーマ別グループでの情報交換 トークテーマ： 「コロナ禍での働き方」「職場環境」「自由におしゃべり」 【情報保障】各自が手話・音声により発話+必要に応じてチャット入力	社会人 スピーカー 8名	48名

オンライン開催におけるグループ分けの適切な人数やコミュニケーションの取り方、情報保障の仕方等については、参加者の方々からのご意見を参考にしながら今後も改善してまいります。

実施後のアンケートでは継続を希望する声を多くいただきましたので、次年度は対面開催も視野に入れながら検討してまいります。

### 第1回カタリバの様子



### ③ライフ&キャリアサポート講座の開講

令和2年度はスキルアップ・キャリアアップ・一般教養に関する各種講座・セミナーを計14日開催し、のべ83名の方にご参加いただきました。

昨年度は都内の貸し会議室等を用いて対面開催していましたが、本年度はコロナ禍により全てWeb会議システムZoomを用いたオンライン開催に切り替えました。通信不良に備えて講義内容は収録しておき、参加者に対してのみ、e-learningシステムにより一定期間の事後配信を行いました。

いずれの回についても参加者への情報保障として手話通訳（講師・ホワイトボードと同画面に配置）と文字通訳（インターネットブラウザ上で閲覧可）を配置しました。

講座・セミナーの具体的な内容等は以下の通りです。

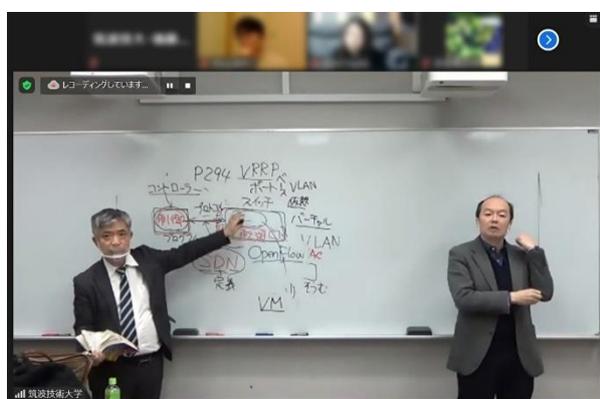
#### 【スキルアップに関する講座】

テーマ	開催日程	概要	講師	受講者
応用情報技術者 試験対策講座	（全5日間） 2020年12月23日 2021年1月20日 2月10日 2月24日 3月3日	情報処理技術者試験の中の「応用情報技術者試験」に関する重点学習項目の解説・演習。 ①データベース ②ネットワーク ③情報セキュリティ ④ネットワーク（HTTP/2） ⑤情報セキュリティ（標的型サーバー攻撃）等	学外講師 1名	5日間 のべ22名 参加
TOEIC試験 対策講座	（全5日間） 2020年10月31日 12月5日 2021年1月9日 2月6日 2月27日	TOEIC試験のReadingパートに関する解説と演習。 ①模擬試験・解説 ②パート5に関する解き方のポイント等 ③パート6に関する解き方のポイント等 ④パート7に関する解き方のポイント等 ⑤模擬試験・解説	学外講師 1名	5日間 のべ25名 参加

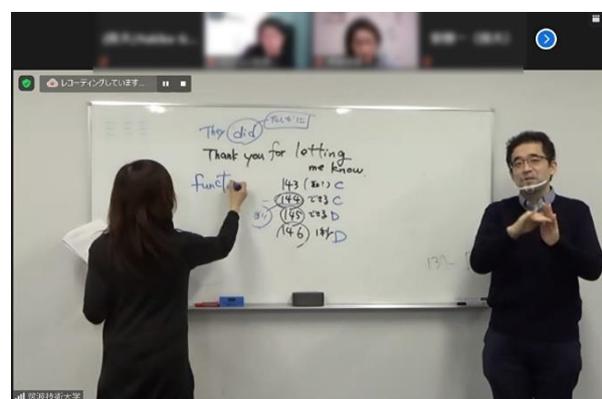
次頁に続きます→

## 【キャリアアップに関する講座】

テーマ	開催日程	概要	講師	受講者
社会保険労務士 試験対策講座	2020年8月9日	国家資格 社会保険労務士の試験直前対策講座。 ○短時間で解答を導き出すためのポイント 等	学外講師 1名	6名参加
キャリアアップに 向けた基礎知識 (ビジネス マネージャー検定試験 対策講座)	(全3日間) 2020年10月24日 11月7日 11月28日	ビジネスマネージャー検定試験対策テキストから一部を抜粋して講義を実施。 ①コミュニケーションの重要性 ②評価制度と人材育成のポイント ③業績目標の設定と財務諸表の見方	学外講師 1名	3日間 のべ30名 参加



応用情報技術者試験対策講座の様子 (左：講師、右：手話通訳)



TOEIC 対策講座の様子 (左：講師、右：手話通訳)

※いずれの講座についても、文字通訳は参加者各自が Web 会議システムとは

別のインターネットブラウザを立ち上げて閲覧する形のため、講義の配信画面には反映されておりません。

## (2) 聴覚障害学生への支援

### ① 「就職セミナー (インターンシップ説明会)」への開催協力

※筑波技術大学 聴覚障害系就職委員会の主催

当事業からは、参加学生向け事前講座への講師派遣、説明会当日の司会進行の協力を行いました。

開催日程： 2020年5月13日(水)14:40-17:30

開催方法： Zoom を使用したオンライン開催

参加者： 企業 17社、筑波技術大学学生 82名

概要：

- ・2020年4月28日(火) 参加学生向け事前講座
  - …オンライン面接における基本的マナーや参加する上での準備・心構え等に関する講話を行った。
- ・2020年5月13日(水) 説明会当日
  - …事前アンケートの結果を元に学生を6グループに分け、企業の方々に Zoom 上の学生グループを回っていただく形で会社概要やインターンシップに関する説明を行った。

### 情報保障：

各参加企業が独自に実施（手話の出来る社員の方が話す、説明内容を別の社員の方がチャットに打ち込む、背景スライドに話す内容を細かく記載する、手話通訳を配置する、等）。



インターンシップ説明会当日の様子

### ②「先輩の話を聞く会」の開催

※筑波技術大学 聴覚障害系就職委員会との共催

開催日程： 2020年1月25日(水)10:30-12:00

開催方法： Zoomを使用したオンライン開催

参加者： 筑波技術大学学生 31名

概要：

講師にオムロン株式会社の田中士賀氏（筑波技術大学卒業生）をお招きし、就職活動のエピソードや就職後の仕事内容、キャリア形成などの体験についてお話しいただいた。

情報保障：

講師が手話を使って話す他、講師の手話を音声に変える読み取り通訳、その音声を文字として打ち込む文字通訳を配置。（通信環境によっては講師の手話が途切れてしまう可能性があることや手話の読み取りが苦手な学生がいることを考慮し、手話と文字という複数の伝達手段を手配した。）

### ③「カタリバ」への学生参加者受け入れ

【参照】 p.12 (1) 社会人聴覚障害者への支援 ②「カタリバ」の開催

第2回「カタリバ」を筑波技術大学学生も参加可能な場とし、先輩社会人とグループで対話できる機会をもちました。事後アンケートでは「学生時代に何が必要かを教えてくださった」「社会生活や就活についてなどいろいろな話を聞いて良かった」といった声が聞かれました。就職活動やその後の社会人生活を見据えて学生である今何をすべきか、考えてもらうきっかけとなったようです。

### ④相談対応

当事業担当者1名がキャリアサポーターとして、筑波技術大学の聴覚障害学生の進路相談・就職活動支援（履歴書添削、面接練習、障害特性の整理、等）を行っております。

対応実績： 対面相談 32件

テレビ会議システムを用いた遠隔相談 115件

メールを用いた相談 100件

この他、首都圏内にある1大学から聴覚障害がある在学生の就職支援について相談を受け、障害特

性に応じた指導・情報提供について継続的に助言を行っております。

### (3) 企業への支援

#### ① 「就職セミナー（インターンシップ説明会）」の開催

【参照】 p.14 (2) 聴覚障害学生への支援 ① 「就職セミナー（インターンシップ説明会）」への開催協力

#### ② 「大学等を卒業した聴覚障害者の就労に関する産学連携シンポジウム」への開催協力

※筑波技術大学 聴覚障害系就職委員会の主催

本シンポジウムは、企業の人事・採用担当者や本学学生・教職員を対象とし、大卒聴覚障害者の就労時において起こる課題の改善策や、学生自身が就労前に準備すべき事柄を探ることを目的として、開催いたしました。特に今回は「聴覚障害者のオンライン環境下での企業におけるコミュニケーション」をテーマとして、テレワークやオンライン会議が急増している現在の状況下での事例提供や意見交換の場として実施されました。

当事業からは、開催当日の配信管理やワークショップにおけるファシリテーターの派遣等への協力を行いました。

開催日程： 2020年12月24日（水）13:30-16:30

開催方法： Zoomを使用したオンライン開催

参加者： 企業関係者 第1部 29社 50名、第2部 17社 22名、のべ 46社 72名

筑波技術大学学生 23名

筑波技術大学教職員 20名

概要（当日プログラム）：

《第1部》聴覚障害者を雇用している企業による事例提供

- ・ NEC フィールディング株式会社 田中 信一郎氏
- ・ 株式会社 JTB データサービス、JTB グループ障がい者求人事務局 笠原 桂子氏

《第2部》ワークショップ

- ・ 参加者が5~10人くらいの小グループに分かれ、参加企業・法人等の皆さまで意見・情報交換を行う。(Zoom ミーティングのブレイクアウトセッションを利用。)

情報保障：

第1部には手話通訳・文字通訳を配置。第2部では、ファシリテーター（筑波技術大学教員）がコミュニケーションサポートを行う他、手話通訳・文字通訳が各グループを巡回した。



## 4. 拠点の整備

当事業ホームページはこちら！

⇒ <https://tsukutech-social.net/site/>



### (1) 当事業ホームページの拡充

昨年度開設したホームページ (<https://tsukutech-social.net/site/>) に、「支援施設・制度」に関する情報提供のページや、当事業の成果物を公開するページを追加しました。

#### 「支援施設・制度」のページ

聴覚障害者のための  
キャリアサポートセンター

## 支援施設・制度

HOME / 支援施設・制度

現在、聴覚障害者の就労と生活を支援・相談する制度や施設等の情報を以下の通りまとめております。就職、転職、休職など、就労に関して情報を収集している方にはこちらの情報もご活用ください。

- ▶ 仕事や生活に関する相談・支援を行っている施設等  
[https://tsukutech-social.net/site/syurou/support\\_facilities\\_work\\_and\\_life/](https://tsukutech-social.net/site/syurou/support_facilities_work_and_life/)
- ▶ 仕事や生活に関する支援制度  
[https://tsukutech-social.net/site/syurou/support\\_system\\_work\\_and\\_life/](https://tsukutech-social.net/site/syurou/support_system_work_and_life/)

イベント・セミナー新着情報

#### 事業成果物の公開用ページ

聴覚障害者のための  
キャリアサポートセンター

## 報告書・成果物一覧

HOME / 報告書・成果物一覧

当事業「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」にて活動を行った内容をまとめた報告書を年度ごとにまとめております。また、当活動を通して得られた知見やノウハウなども成果物としてまとめ、皆さまのお役に立てるように今後、逐次追加する予定です。

- ▶ [2019 \(令和元\) 年度活動報告書【PDF: 2MB】](#)  
当事業の概要、2019年度の実績、「聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査」等、が掲載されています。2019年度は、上記調査をはじめ、米国の就労支援施設とのWebミーティング、各種講座、相談対応等を行いました。  
「聴覚障害者の職業生活・支援ニーズに関する実態調査」にご協力いただきました皆様には、この場をお借りして感謝申し上げます。

イベント・セミナー新着情報

### (2) SNS の活用

2020年9月に、当事業のLINE公式アカウントを開設しました。イベント等の案内や個別の相談受付等に活用しております。2020年9月～2021年3月の間に19回の情報発信を行いました。

2021年3月20日現在、友だち登録者数は56名です。

LINE公式アカウントID: @824fhwoj

(※名称: 聴覚障害者のためのキャリアサポート)

聴覚障害者のためのキャリアサポート

友だち 56 | フォロワー 0 | 投稿 19

0 下書き >

0 予約 >

聴覚障害者のためのキャリアサポート ...

## 5. 令和 3 年度事業について

### (1)実情調査の実施

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により対面でのヒアリング調査実施が叶わなかったため、次年度は、感染拡大状況を引き続き注視しながら、筑波技術大学以外の「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンター」拠点設置に向けた各所の視察や関係する方々のヒアリングを行ってまいります。

### (2)社会人聴覚障害者への支援

令和 2 年度はライフ&キャリアアップセミナーや「カタリバ」を数多く開催してまいりました。令和 3 年度は、参加者アンケートでいただいたご意見を踏まえて、開催方法や内容、情報保障の配置等を改善し、参加者の方々により有意義な時間を過ごしていただけるよう努めます。また、継続的な事業実施や参加者が自由な場所・時間に閲覧できるようになるために、セミナー等の内容を一部を e-learning 教材にして配信することも検討しております。

### (3)聴覚障害学生への支援

筑波技術大学の在学生の支援に関しては、引き続き大学内の各組織と連携しながらイベント開催や相談対応を行ってまいります。また、令和 3 年度は従来の短期、あるいは授業単位として位置づけるインターンシップに限らない、新たなインターンシップの実施方法を模索していく他、他大学からの在学支援に関する相談も積極的に受けてまいります。

### (4)企業への支援

令和 3 年度は、引き続き各種イベントを開催していくと共に、相談窓口の周知を進め、より多くの個別の相談支援が受けられるよう、体制の整備を進めてまいります。また、音声認識ツールの活用方法についての関心が高いことを受けて、当事業として機材や各種ツールの試用を進め、会議等への参加人数や予算等に合わせた活用方法に関するマニュアルの作成を検討しております。

### (5)拠点の整備

令和 2 年度は、本事業ホームページの内容を拡充していくと共に、相談申込みや講座の参加受付フォームの整備、SNS のアカウント取得を進め、本事業の広報に力を入れてまいります。また、サテライトオフィスの効果的活用についても検討してまいります。

**日本財団助成事業「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」  
令和元年度活動報告書**

執筆・編集：

筑波技術大学 産業技術学部 河野 純大 、後藤 由紀子

事業担当者：

河野 純大、加藤 伸子、白澤 麻弓、小林 彰夫、安 啓一、横井 聖宏、  
後藤 由紀子、田中 陽土

発行：

日本財団奨学寄付金

「聴覚障害者のためのキャリアサポートセンターの設置」事業 つくば拠点

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

国立大学法人筑波技術大学 総合研究棟 R207 室

TEL,FAX: 029-858-9016 E-mail: career\_support@tsukutech-social.net

発行日：

令和3年4月